市民CSWer研修会in福島の開講に際し、一言お祝いの言葉を述べさせて頂きます。

今日、私たちの住む地域社会は、甚大な被害を与える災害の巨大化・日常化、少子高齢化社会の著しい進展、非正規雇用の増加による雇用環境の不安定化や生活困窮と背中合わせの生活等々、これまでの「当たり前」に大きな変更を余儀なくされています。

また、少子高齢化した人口減少社会は、静かな有事とも表現され、これまで私たちの社会を守ってきた様々な仕組みは、制度疲労を起こし限界に来ています。

一方、こうした社会情勢の変化を迎え撃つ我々の社会はどうでしょうか。近隣関係の希薄化、行き過ぎた個人主義、市場経済に委ねすぎた日常生活等々、生活基盤の脆弱さを露呈し、些細なことで簡単に生活の維持が難しくなる弱さを持ってしまうようになりました。

レジリエンス（resilience）という言葉があります。レジリエンスとは、外的な衝撃に、ぽきっと折れることなく、立ち直ることのできる「しなやかな強さ」のことです。レジリエンスの概念は、生態系の分野や心理学の分野で発展してきましたが、今日では、教育、子育て、防災、地域づくり、温暖化対策など、さまざまな分野で使われるようになっており、数多くの｢レジリエンス向上｣のための取り組みが展開されています。

私たちの社会は、高度に複雑化し何かと生きづらくなっています。そんな中にあるからこそ、たとえ困難な状況に陥ったとしても、ぽきっと折れることなく、立ち直ることのできる「しなやかな強さ」を持つ地域社会づくりが必要です。

こうした困難な状況にある今こそ、私たちは、私たちの生活を足下から考え直す、好機を手にしているのではないかと思います。

この好機に際しては、共に心を振るわせ、共に憤慨し、共に喜び合う、こうした仲間と学びの場が必要なのだと思います。

市民CSWer研修会in福島は、正に、このことに応える『場』なのではないかと思います。

今後は、共に学ぶ仲間の存在がこれまでにも増して大きくなると思います。それぞれの立場で学びを生かして行くことになりますが、その際には仲間が必要になります。今回、志を一つに学ぶ一人ひとりが仲間となって、新たなネットワークを形成し、活気ある地域社会を創る源になってくれるものと信じています。

市民CSWer研修会in福島の開講を心からお祝いし、ご挨拶と致します。

令和４年５月２１日

地域福祉研究所　主宰

市民CSWer研修会in福島　顧問

　本間照雄